

## 地震波速度トモグラフィで診るひずみ集中帯の深部構造

### 3D seismic velocity structures beneath high-strain-rate zones in Japan: Implications for a cause of strain concentration

# 中島 淳一 [1]

# Junichi Nakajima[1]

[1] 東北大・理・予知セ

[1] RCPEV, Graduate School of Sci., Tohoku Univ.

GPS等の地殻変動観測点の整備により、日本列島には歪速度が周辺より数倍から1桁程度大きな「ひずみ集中帯」があることがわかってきた。これまでの地震波トモグラフィの研究により、主なひずみ集中帯である新潟-神戸歪集中帯や東北脊梁山地下の最上部マントル・下部地殻には地震波低速度領域が存在することが指摘されており（Nakajima et al., 2001; Nakajima and Hasegawa, 2007）、周囲より低粘性の下部地殻や最上部マントルの塑性変形が地表に歪集中をもたらす要因の一つであると解釈されている。

たとえばNakajima and Hasegawa (2007)では、新潟-神戸歪集中帯について、糸魚川-静岡構造線（糸静線）の西側では下部地殻と最上部マントルに、東側では最上部マントルと上部地殻に低速度域が存在することを明瞭に示し、糸静線の東西でその原因が異なる可能性を指摘している。

本講演では、これまでの解析で得られている歪集中帯下の不均質構造の関係について、特に最上部マントルと下部地殻に焦点を絞りその特徴を報告する。また、ひずみ集中帯の成因に関する議論を行う。